

# 奈良伝

## 奈良漆器

### 奈良時代から伝わる 漆工芸の技術を受け継ぐ姉弟。

正倉院や春日大社に今も伝わる漆工芸品には、漆塗りの部分に美しく光る貝をはめ込む、螺鈿らでんという技術が使われています。そんな美しい漆工芸の技術が今も奈良で伝えられています。



漆工芸 北村繁さん(41歳)

漆工芸 小西寧子さん(45歳)

全国に色々な漆器がありますが、奈良漆器の特徴ってなんですか？

まずは螺鈿と呼ばれる貝を用いた装飾です。奈良の螺鈿は厚みのある夜光貝などの貝の板を精巧に加工する技術が特徴です。貝の輝きに奥行きがあり、品格の高い仕上がりになります。さらに、水晶や琥珀こはく、タイマイなど、国際色豊かな素材を用いることも特徴ですね。奈良時代に大陸から伝わった貴重な漆工芸品が残る奈良らしい技術だと思います。



貝を切る繁さん

色々な方法があると思いますが、代表的な作り方を教えてください

①まず、漆を塗る土台となるものを形づくります。素地の作り方は色々ありますが私たちは、檜ひのきの薄い板を曲げたり重ねたりして、形を作るんです。

②麻布を貼った上に下地を作り漆を塗っては研ぐことを何度も繰り返します。

③螺鈿の原料の夜光貝を糸鋸いとのこぎりなどで細かく切つて文様を作ります。蒔絵まきえの場合は、漆を塗った部分に金粉などを蒔まぎます。

④螺鈿も蒔絵も、貝や金粉の上から一旦漆を塗り込めます。



漆を塗る。この刷毛は人の毛でできていて、漆を塗るには最適。

⑤最後に慎重に漆を研ぎ出すと、下から螺鈿や蒔絵文様が姿を現します。



さまざまな炭で、表面を研ぐと、下から文様が輝き出す。

漆という塗るイメージが強いかもしれませんが、研ぐ作業が大部分を占めているんですよ。

これからどんな制作活動をしていこうとお考えですか？

奈良において伝えられてきた良いものや伝統的な技術を後世に伝えていきたいと思えます。その中で大学で学んだ金工芸なども融合させたもの作りをしていきたいですね。(繁さん)

螺鈿など奈良らしい技術を取り入れ、日々の生活が豊かになるような、日用品も作っていききたいと思えます。そして、技術を高める努力をひたすら続けたいですね。(寧子さん)

お二人のお父様でもある、人間国宝の北村昭齋しょうさいさんからひとことお願いします。

漆器の技術にも、作り手のそれぞれの生き方が反映されてしかるべきだと思います。昔からの方法で伝統を守るだけでなく、現代の漆のスタイルも見つけて欲

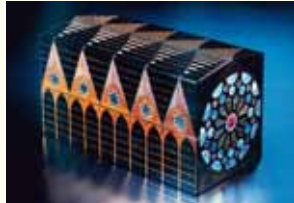
しいです。ただ、美的遺産が多く残る奈良に暮らす者として、社寺の行事で使われる用具など昔から変わらないものは、これからも変えずに受け継いでいくことが必要だと思いますね。



螺鈿技術では日本初となる重要無形文化財保持者(人間国宝)北村昭齋しょうさいさん。国内外の漆工品の修復や、自然の情景や幾何学文様を取り入れた現代的な作品など、毎年新作も生み出している。



螺鈿箱らでんばこ若菜一 小西寧子



螺鈿蒔絵箱らでんまきえばこカテドラル 北村繁



繁さんと寧子さんの作品を間近に見られるのは、**北村繁・小西寧子 二人展**  
高島屋大阪店6階ギャラリーNEXT  
10月23日(水)～29日(火)  
高島屋大阪店  
06-6631-1101(代表)